

フロントガーデンと バックガーデンの 演出を変えて 楽しむのが英國流



↑自然光がたっぷり入るコンサバトリーとバックガーデンは空間に連続性を感じられます

→シックで落ち着いたたたずまいのスキングリーさんの家



↑スキングリーさんご夫妻は大のガーデニング好きで、お友達にアドバイスを頼まれるほどです

→室内はさりげないインテリアで、安らぎを感じさせる空間になっています



亡き母親をしのんでつくったメモリアルプレイス。木のアーチでバーゴラ風に

**昼夜がりのお茶を楽しむ
バックガーデンは
もうひとつリビング**

都市のなかでも、「ガーデニングの本場だな」と感じさせる優れた公園に出合つことが多いイギリス。しかし、そうした公園だけでなく、壮麗な貴族の館の庭園、コテージと呼ばれるカントリー・ハウス、都市部のほんのわずかなスペースの庭しか持たないタウンハウス、小さなベランダが庭がわりの集合住宅でも、あちらこちらにガーデニングのエッセンスを見ることがあります。

そんなイギリスの典型的な個人住宅の正面を彩るフロントガーデンと、家の裏側に閉じられた空間としてのバックガーデンがあります。これは長い伝統のなかで培ってきた「ガーデニングのルール」ともいえます。そのたまごの家でも2タイプのバックガーデンは「家族のプライベートな空間」を前提に作られています。そのためどこの家でも2タイプの違った趣の庭があり、またそれが個性に彩られているのです。

コンサバトリーが バックガーデンの 中心になる

ロンドンのアレン・スキングリーさんの住宅は、イギリスの伝統を継承した典型的な庭のある家です。金融関係に勤めるアレンさんと学校の先生をしている奥さまのエリザベスさんのお二人は、ガーデニングが趣味というだけのことはあって、自分たちで手入れをし、またオリジナルのアレンジを加えて楽しんでいます。

スキングリー家の庭でとくに素晴らしいのはバックガーデンです。「コンサバトリー」と呼ばれるサンルームに面した庭には、日本のガーデンにも大いに参考になるアイデアが随所にちりばめられています。

庭自体は芝生を中心に配し、周囲には、つくり込んでいない樹木を植えています。樹木の下にはグラウンドカバーとしてさまざまな花や低木を植え込み、高低をつけたり、ボリューム感を出しています。このように、植物の自然のままの姿を生かす植え込み方は、イングリッシュ・ガーデンの典型です。そして庭の隨所には、ガーデンテーブル& チェアや、鳥たちのための水槽、バーベキュー・グリル、キャンドルスタンドなどが配されています。この庭は植物を楽しむだけでなく、リビングであり、ダイニングであり、またプレイヤードであります。さあざまな目的に使われます。でもいつでもここにいる人たちが、くつろぎの時間を持てる、それがこの庭の魅力なのです。

MR. & Mrs. Skingley's
House

→バックガーデンは家族の憩いの場であると同時に、子供たちの遊び場であり、社交の場でもあります

↓ガーデンチェアはゆったりと座れるものを選んでいます



→小さな噴水は庭にやってくる小鳥たちにとってもオアシス

↑バーベキュー用のグリルはレンガを使って手作りしました

→植物の高低差やボリューム感が絶妙です

↓夜の庭の演出のために、キャンドルスタンドがあちらこちらに置かれているのが目をひきます



